



平成30年7月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年12月11日

上場会社名 株式会社ジャパンミート 上場取引所 東
 コード番号 3539 URL http://japanmeat.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 境 正博
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経理部長 (氏名) 杉山 洋子 (TEL) 03 (6453) 6810
 四半期報告書提出予定日 平成29年12月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年7月期第1四半期の連結業績(平成29年8月1日～平成29年10月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年7月期第1四半期	26,344	7.1	761	△15.9	753	△19.6	412	△22.5
29年7月期第1四半期	24,587	—	905	—	937	—	532	—

(注) 包括利益 30年7月期第1四半期 406百万円(△29.5%) 29年7月期第1四半期 576百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年7月期第1四半期	15.49	—
29年7月期第1四半期	19.95	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年7月期第1四半期	36,341	21,787	60.0
29年7月期	37,945	21,647	57.0

(参考) 自己資本 30年7月期第1四半期 21,787百万円 29年7月期 21,647百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年7月期	—	10.00	—	10.00	20.00
30年7月期	—	—	—	—	—
30年7月期(予想)	—	10.00	—	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年7月期の連結業績予想(平成29年8月1日～平成30年7月31日)

連結業績予想に関する序文

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	109,647	5.7	4,180	5.8	4,242	3.8	2,270	△15.1	85.23

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 社(社名) 、除外 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年7月期1Q	26,679,500株	29年7月期	26,679,500株
② 期末自己株式数	30年7月期1Q	42,767株	29年7月期	42,767株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年7月期1Q	26,636,733株	29年7月期1Q	26,679,500株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日において当社グループが判断したものであります。

(業績の状況)

当第1四半期連結累計期間(平成29年8月1日～平成29年10月31日)における我が国経済は、海外経済の回復を背景に輸出、生産活動が回復し、雇用情勢は堅調に推移しておりますが、物価や賃金の伸びは緩やかなものにとどまっており、引き続き個人消費が伸び悩む展開となりました。

食品小売業界におきましては、消費者の節約志向の高まりによる買い控え、生鮮食品をはじめとした食品全般の低価格志向によって企業間競争が激化したことに加え、台風や天候不順により客足が減少する等、引き続き厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、お客様の暮らしの基本である食を通して、安心・安全を守り、値頃感がある商品展開をすすめ、変化に富んだ店づくりをすることで、さらなるご支持をいただけるような店舗運営に努めてまいりました。

当第1四半期連結累計期間における経営成績は、スーパーマーケット事業において前連結会計年度に出店した5店舗及び前連結会計年度より当社グループ入りしたAATJ(株)、(株)アクティブマーケティングシステムの寄与等があり、売上高26,344百万円と前年同四半期に比べ1,756百万円(7.1%)の増収となりました。

しかしながら、スーパーマーケット事業において前連結会計年度に新規出店した5店舗の販売促進を継続して実施したこと、青果部門において野菜を中心に前期に比べ大幅な相場安となったこと、鮮魚部門においては近海魚等の不漁により相場が高騰したことに加え、近年の魚離れも影響し、売上高及び売上総利益が伸び悩みました。その他のイベント関連事業においては、本年9月のシルバーウィーク期間中に開催した「肉フェス」「餃子フェス」の3会場が豪雨、強風の悪天候に見舞われ、内2会場は台風の影響により開催日を短縮したことなどにより客足が伸び悩んだことも影響し、売上総利益率が27.9%と前年同四半期に比べ1.2%低下いたしました。

販売費及び一般管理費におきましては、コストコントロールによって売上に対し25.0%と前年同四半期に比べ0.4%改善いたしました。売上総利益率の低下を補填するには至らず、営業利益は761百万円と前年同四半期に比べ144百万円(15.9%)の減益、経常利益は753百万円と前年同四半期に比べ184百万円(19.6%)の減益となりました。

また、前連結会計年度に当社子会社の本社ビル建替えに伴う退去費用として受取補償金99百万円を特別利益として計上したことにより、親会社株主に帰属する四半期純利益は412百万円と前年同四半期に比べ119百万円(22.5%)の減益となりました。

当社グループにおける事業セグメントごとの状況は、次のとおりであります。

① スーパーマーケット事業

スーパーマーケット事業につきましては、大型商業施設内店舗「ジャパンミート生鮮館」、関東圏単独店舗「ジャパンミート卸売市場」、北関東で展開する地域密着型店舗「パワーマーケット」、東京都内を中心に展開する業務用スーパー「肉のハナマサ」を展開しております。

いずれの店舗におきましても、来店される顧客が楽しんでお買い物ができる店づくりを目指し、当社グループの強みでもある精肉部門を中心とした生鮮各部門及び一般食品から惣菜にいたるまで、それぞれの部門が商品力・技術力に磨きをかけ、顧客のニーズにあった値頃感のある商品展開をすすめ、より安心・安全な商品を提供できるよう、努めてまいりました。

商品の販売につきましては、特定の商品を大量に陳列し、値頃感がある商品を顧客へアピールをすることで購買意欲を高める「異常値販売」を定期的実施するほか、グループ各社で開発した商品を共有し販売を行うことで、販売点数及び商品の仕入力の向上、採算の安定に繋がるよう努めてまいりました。

また、当社の加工物流センターでの大量かつ効率的な精肉加工、商品供給を行うことで店舗オペレーションを安定的にサポートするほか、店舗内においても必要に応じて精肉加工を行い、売れ筋に対応した商品の速やかな提供により販売機会のロスを削減するなど、戦略的、効率的な販売に努めております。現在、加工物流センターで生産、加工された商品は「ジャパンミート生鮮館」、「ジャパンミート卸売市場」、「パワーマーケット」業態の精肉部門の売上高約6割を担っており、「肉のハナマサ」においても売れ筋に特化した商品の供給

を行っております。商品の仕入につきましては、加工物流センターにおける大量備蓄機能を活用することで、食材価格変動、為替変動の影響を受けにくい商品仕入体制を構築し、採算の安定と商品在庫の確保を図っております。

当第1四半期連結累計期間の店舗の状況は、平成29年9月に「肉のハナマサ」金沢店（神奈川県横浜市）が賃貸借契約期間満了に伴い閉店いたしました。これにより当第1四半期連結会計期間末時点におけるスーパーマーケット事業の店舗数は79店舗になりました。

当第1四半期連結累計期間における売上高につきましては、8月盆商戦時期の長雨、10月の台風等の天候不順により来店客数が伸び悩んだことにより、既存店売上高が1.1%減となりましたが、前連結会計年度に新規出店した5店舗の売上寄与があり、25,322百万円と前年同四半期に比べ1,212百万円（5.0%）の増収となりました。一方で青果部門においては、野菜を中心に大幅な相場安となり、相場が高騰した前期に比べて1品単価が大きく下落したこと、鮮魚部門においては旬であるサンマ、秋鮭や近海魚等が不漁により相場が高騰したこと、近年の魚離れに加えアニサキス食中毒に関する報道等により、売上高及び売上総利益に影響を及ぼしました。以上の結果、セグメント利益(営業利益)は730百万円と前年同四半期と比べ121百万円（14.3%）の減益となりました。

② その他

その他につきましては、外食事業、イベント関連事業、アウトソーシング事業で構成されております。

外食事業につきましては、主に「焼肉や漫遊亭」を展開しております。当第1四半期連結累計期間におきましても、得意とする精肉の調達力、ノウハウを活かし、新鮮で高品質な料理を安価でご提供できるよう努めてまいりました。また、おいしい商品と快適な食事空間を提供するという基本方針のもと、新メニューの開発をすすめ、他店との差別化を図り、お客様が楽しく食事ができる店づくりに努めてまいりました。

イベント関連事業につきましては、平成29年2月に連結子会社化したAATJ(株)において「肉フェス」など食に関わるイベントの展開、国内外のイベントの制作、運営などイベント関連事業を行っております。当第1四半期連結累計期間における活動状況といたしまして、平成29年8月に「肉フェスNIIGATA2017」（新潟県新潟市）、「肉フェス大阪泉州夏祭り2017」（大阪府泉南市）、9月に「肉フェスTOKYO2017秋」（東京都世田谷区）、「肉フェスOSAKA2017」（大阪府大阪市東住吉区）、「餃子フェスSENDAI」（宮城県仙台市宮城野区）、10月に「餃子フェス×熊本県民テレビ夢まちランド」（熊本県熊本市）を開催いたしました。今後も食肉及び地域の食文化の魅力を国内外に発信する取り組みを行ってまいります。

アウトソーシング事業につきましては、平成29年4月に連結子会社化した(株)アクティブマーケティングシステムにおいて、スーパーマーケット業界におけるレジ業務の受託をコアビジネスとしたアウトソーシング事業を行っております。スーパーマーケットの実務経験に基づいた独自のノウハウによって、顧客のニーズに応える質の高いサービスを提供しております。当社におきましては、スーパーマーケット事業の「ジャパンミート生鮮館」、「ジャパンミート卸売市場」、「パワーmarkt」においてレジ業務を(株)アクティブマーケティングシステムに委託しております。レジ業務のプロフェッショナルとして新規顧客開拓を行い、業容の拡大に努めてまいります。

当第1四半期連結累計期間における売上高につきましては、前連結会計年度より当社グループ入りしたAATJ(株)、(株)アクティブマーケティングシステムの売上寄与のほか、外食事業においては既存店売上高1.9%増と奏功した結果、その他の事業の売上高は1,439百万円と前年同四半期と比べ800百万円（125.2%）の増収となりました。しかしながら、イベント関連事業において9月シルバーウィーク期間中に開催した「肉フェスTOKYO2017秋」、「肉フェスOSAKA2017」、「餃子フェスSENDAI」において台風等の悪天候に見舞われ、計画通りイベントを開催できなかった結果、セグメント利益(営業利益)は23百万円と前年同四半期と比べ25百万円（52.5%）の減益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(財政の状態)

(流動資産)

当第1四半期連結会計期間における流動資産は、前連結会計年度と比べ1,323百万円減少し、16,068百万円(前連結会計年度末比7.6%減)となりました。主な要因は、法人税等の支払いによることを含む現金及び預金の減少952百万円であります。

(固定資産)

当第1四半期連結会計期間における固定資産は、前連結会計年度と比べ280百万円減少し、20,272百万円(前連結会計年度末比1.4%減)となりました。主な要因は、減価償却による有形固定資産の減少212百万円によるものであります。

(流動負債)

当第1四半期連結会計期間における流動負債は、前連結会計年度と比べ1,325百万円減少し、9,875百万円(前連結会計年度末比11.8%減)となりました。主な要因は、短期借入金の返済による減少額340百万円及び法人税等の支払いによる減少額601百万円によるものであります。

(固定負債)

当第1四半期連結会計期間における固定負債は、前連結会計年度と比べ419百万円減少し、4,678百万円(前連結会計年度末比8.2%減)となりました。主な要因は、長期借入金の返済による減少額320百万円によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間における純資産は、前連結会計年度と比べ140百万円増加し、21,787百万円(前連結会計年度末比0.6%増)となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等による利益剰余金の増加額146百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、平成29年9月13日付発表の「平成29年7月期 決算短信」の記載から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年7月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,158	9,205
売掛金	1,170	1,169
たな卸資産	4,089	3,952
その他	1,974	1,741
流動資産合計	17,392	16,068
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,289	7,193
その他(純額)	4,028	3,912
有形固定資産合計	11,317	11,105
無形固定資産		
のれん	3,107	3,003
その他	683	663
無形固定資産合計	3,791	3,666
投資その他の資産		
敷金及び保証金	4,231	4,283
その他	1,240	1,245
貸倒引当金	△28	△28
投資その他の資産合計	5,443	5,500
固定資産合計	20,552	20,272
資産合計	37,945	36,341

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年7月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年10月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	5,023	5,005
短期借入金	1,186	846
1年内返済予定の長期借入金	586	587
未払法人税等	886	284
賞与引当金	296	160
その他	3,221	2,990
流動負債合計	11,200	9,875
固定負債		
長期借入金	3,355	3,035
退職給付に係る負債	315	328
資産除去債務	445	437
その他	980	876
固定負債合計	5,097	4,678
負債合計	16,297	14,553
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,229	2,229
資本剰余金	2,350	2,350
利益剰余金	16,904	17,050
自己株式	△45	△45
株主資本合計	21,437	21,584
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	230	224
退職給付に係る調整累計額	△21	△20
その他の包括利益累計額合計	209	203
純資産合計	21,647	21,787
負債純資産合計	37,945	36,341

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成28年10月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成29年10月31日)
売上高	24,587	26,344
売上原価	17,442	19,003
売上総利益	7,144	7,340
販売費及び一般管理費	6,239	6,579
営業利益	905	761
営業外収益		
受取ロイヤリティー	16	16
受取手数料	2	2
その他	20	20
営業外収益合計	38	39
営業外費用		
支払利息	5	8
解約手数料	—	21
その他	1	16
営業外費用合計	6	46
経常利益	937	753
特別利益		
受取補償金	99	—
特別利益合計	99	—
税金等調整前四半期純利益	1,037	753
法人税、住民税及び事業税	404	256
法人税等調整額	101	84
法人税等合計	505	340
四半期純利益	532	412
親会社株主に帰属する四半期純利益	532	412

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成28年10月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成29年10月31日)
四半期純利益	532	412
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	44	△6
退職給付に係る調整額	0	0
その他の包括利益合計	44	△5
四半期包括利益	576	406
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	576	406
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業的前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年8月1日 至 平成28年10月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年10月24日 定時株主総会	普通株式	266	10	平成28年7月31日	平成28年10月25日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年8月1日 至 平成29年10月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年10月23日 定時株主総会	普通株式	266	10	平成29年7月31日	平成29年10月24日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年8月1日 至 平成28年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	スーパー マーケット事業				
売上高					
外部顧客への売上高	23,948	639	24,587	—	24,587
セグメント間の内部売上高 又は振替高	161	—	161	△161	—
計	24,109	639	24,748	△161	24,587
セグメント利益	851	48	900	4	905

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外食事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額4百万円は、セグメント間取引消去額であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年8月1日 至 平成29年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	スーパー マーケット事業				
売上高					
外部顧客への売上高	25,163	1,181	26,344	—	26,344
セグメント間の内部売上高 又は振替高	159	258	417	△417	—
計	25,322	1,439	26,761	△417	26,344
セグメント利益	730	23	753	7	761

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外食事業、イベント関連事業、アウトソーシング事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額7百万円は、セグメント間取引消去額であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。